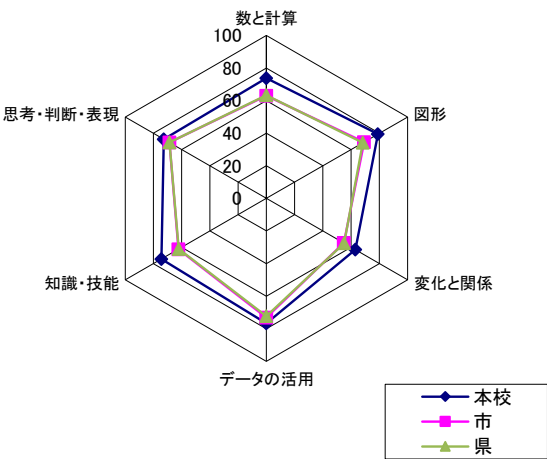


宇都宮市立桜小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.8	63.0	63.3
	図形	79.0	69.2	68.3
	変化と関係	62.9	54.8	55.0
	データの活用	76.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	74.4	62.3	62.1
	思考・判断・表現	72.7	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○数直線上のメモリが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題では市の平均正答率を31ポイント、県の平均正答率を30.8ポイント上回った。 ●図から数量の関係を読み取り、一つの式で表す問題では市・県の平均正答率を10.5ポイント下回った。	・今後も小数・分数のしくみや計算の仕方について理解を図れるようにする。 ・課題解決の際、ペアやグループで話し合ったり考えを書いたりする活動を意図的に増やし、計算の工夫について説明できるよう繰り返し指導していく。
図形	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では市の平均正答率を14.3ポイント、県の平均正答率を8.8ポイント上回った。 ○ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題では市の平均正答率を11.9ポイント、県の平均正答率を14.7ポイント上回った。	・引き続きICT等を活用し、図形について理解を深めていく。 ・コンパスや定規の使い方を丁寧に指導したり、学習課題に繰り返し取り組ませたりして習熟を図っていく。
変化と関係	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では市の平均正答率を14.6ポイント、県の平均正答率を12.8ポイント上回った。 ○割合を使った長さの求め方を説明する問題では市の平均正答率を8.2ポイント、県の平均正答率を10.2ポイント上回った。	・伴って変わる2つの数量関係について、多角的に捉えられるようなものの見方や考え方をできるよう指導していく。 ・割合を使った比べ方について説明する問題では、図を用いて視覚的に捉えられるようにすることで、理解を深めるようにしていく。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○二次元の表の空欄がどのような人数を表しているか説明する問題では市の平均正答率を11.2ポイント、県の平均正答率を12.2ポイント上回った。 ●二次元の表の空欄にあてはまる人数を答える問題では市の平均正答率を6.1ポイント、県の平均正答率を4.1ポイント下回った。	・データから読み取れることを説明する課題では、算数的な見方や考え方を働かせながら表現することができるよう、読み取ったことを伝え合う活動を取り入れていく。 ・二次元の表を作成する活動を通して、空欄に入る数量を求める問題に慣れるようにする。